

原石を採せ

東北楽天スカウト日誌



5月31日に本拠地のコボス夕宮城であった交流戦の巨人戦を視察しました。気になっていた大学生や社会人のような即戦力に近い選手が1軍で勝負できるか、今のレギュラーと競争できるか。そういうイメージを持つため、時折、1軍や2軍の試合に足を運びます。

もちろんスカウトなら、新人を中心に入団した選手がどう頑張っているのかは気になりますよね。新人は右も左も分からず、無我夢中でやって

長島 哲郎 スカウト部長

東北の選手見逃せぬ

いるんですから。ドラフト1位新人の安楽智大投手が甲子園球場での2軍阪神戦で投げた時は、担当スカウトに「激励に行つてこい」と行かせました。入れてしまえばいい、というものではありません。

つらいんじゃないかな。今が踏ん張り時。1年間1軍にいて、1試合でも多く貢献してほしい。もっとできると思っています。

8日に全日本大学野球選手権が始まりました。トップレベルの大学生を見られる大事な大会です。全10人のアマチュア担当スカウトが集まり、会場の神宮球場と東京ドームを行ったり来たりして徹底的に見ます。

ドラフト3位で入った大卒の福田将儀外野手は開幕から1軍で頑張っていますね。この時期、大学生なら春のリーグ戦が終わって、ちよつとひと休みなのでしょうが、プロで1年間、野球をするのはすごく大変なこと。体力的にも

この大会では仙台大の熊原健人投手、富士大の多和田真三郎投手ら東北の大学球界を

代表する選手を、地元球団としては絶対に見落とせません。明大の上原健太投手や駒大の今永昇太投手ら全国的な注目を集める選手と比べても、熊原、多和田は引けを取りません。

大会期間中には3回目のス

カウト会議を行います。秋のドラフト会議に向け、われわれの仕事は中盤から終盤に入ってきます。追い掛けていく選手の情報を共有し、けがをした選手が復調したのかなどを確認します。今まで大まかに300人くらいだった

たドラフト候補のリストは250人くらいになるでしょう。

それでも、この時期はさまざまな大会があり、「この選手がいろいろいいよ」という情報が入ってきます。リストには入っていないけれども、気になった場合はすぐ見に行き、良さそうな選手なら追い掛けようとなります。特に高校生はすごく伸びる可能性があり、見逃すわけにはいきません。

ドラフト会議まで5カ月を切りました。とにかく良い選手を見つけてきて、チームの底上げにつなげたい。そのために、また全国行脚の旅に出られます。